

札幌市夜間急病センターの運営見直しについて —前回のご意見と答申への反映案—

令和7年10月2日（木）
札幌市医療体制審議会事務局

CT撮影等の検査について

CT撮影等の検査についてーご意見ー

- それほど時間のかかることではないので、必要ならどんどん検査をすれば良い。（中村委員）
- 急性腹症に限らず、必要な検査を実施していく方針で良いと思う。（今会長）
- 必要に応じて備わっている機器を使用するということではないか。病態に応じて必要があれば積極的に検査を実施するという文言が良い。（成田委員）

CT撮影等の検査について一答申への反映案一

第2 課題への対応

2 札幌市夜間急病センターの課題への対応策

(1) 診療体制の強化に関わる対応

ア 体制整備とそれに伴う診療報酬

また、例えばCT撮影について、現在は日ごとの差が大きいという実態がある。夜間急病センターに備わっている機器を活用するとともに診療の安定性向上を図るため、病態に応じて必要があれば積極的に検査を実施することについて検討の必要がある。

CT撮影等の検査について一答申への反映案一

- 第3 見直しの取組み（提言）
 - 2 見直しの取組み内容
 - (1) 速やかに行われるべき取組み
 - ア 診療体制の強化

また、夜間急病センターに備わっている機器を活用するとともに診療の安定性向上を図るため、病態に応じて必要があれば積極的に検査を実施すること。

看護師配置について

看護師配置について—ご意見—

- 入院を受け入れることで、看護師の人員も変わってくるのではないか。（中村委員）
- 医療的なケアの内容が昔と変わっている点も鑑みるべき。接遇を改善すると患者さんに関わる時間も増える。（高橋委員）
- 激変緩和しないといけないので、現場の意見を勘案しながら対応していただきたい。（今会長）
- 受診後の電話相談はなくなる。絶対に人を取られるし、なくすのは難しいのではないか。（山田委員）

看護師配置について一答申への反映案一

第2 課題への対応

2 札幌市夜間急病センターの課題への対応策

(2) 歳出減に関わる対応

ア 人件費

また、看護師が診療に従事する傍ら、市民からの救急医療相談も含めた電話相談業務に当たっていることから、救急安心センターさっぽろの活用などにより、業務分担について見直しの余地がある。

このことから、看護師について、現時点の受診者数や求められる医療の変化などに見合った配置人数に適正化するとともに、将来の受診者数の推移に応じて適時見直しを行うことが必要である。

看護師配置について一答申への反映案一

第2 課題への対応

2 札幌市夜間急病センターの課題への対応策

(2) 歳出減に関わる対応

ア 人件費

併せて、看護師が行う電話相談業務を見直し、救急安心センター
さっぽろで対応可能な救急医療相談等は救急安心センターを活用
するとともに、その他の一般的な問い合わせは窓口業務委託の事
務職員に移行することで、業務分担の効率化を図る必要がある。

看護師配置について一答申への反映案一

第3 見直しの取組み（提言）

2 見直しの取組み内容

(2) 令和8年度当初までに行われるべき取組み

ア 看護師職員配置の適正化

開設当初である平成16年度から令和6年度にかけて、受診者数が4割以上減少している実態を踏まえ、看護師職員配置の適正化を行うこと。

なお、配置の検討においては、別表の令和6年度時点の受診者数に見合った看護師職員の配置人数を基準とするほか、求められる医療の変化や法定休日等の労務環境に対応した勤務シフト、前出の体制強化より生じる新たな役割など、夜間急病センターの運営の実務における要件を考慮すること。

また、配置の適正化は、令和8年度当初までに着手し、段階的に取り組むとともに、繁閑に対応するための柔軟な雇用体制を構築すること。

看護師配置について一答申への反映案一

第3 見直しの取組み（提言）

2 見直しの取組み内容

(2) 令和8年度当初までに行われるべき取組み

ア 看護師職員配置の適正化

併せて、看護師による電話相談業務は見直し、救急安心センターさっぽろで対応可能な救急医療相談等は救急安心センターを活用するとともに、その他の一般的な問い合わせは窓口業務委託の事務職員に移行すること。なお、電話相談業務を移行することに伴い、市民サービスが極端に悪化することのないよう、対応マニュアル等を作成するなどの体制を整備した上で段階的に進め、看護師業務負担減少への効果も見極めること。

(参考)

看護師配置についてー電話相談状況ー

<令和7年7月の電話相談状況>

項目	相談件数
病気・治療・処置・薬の取扱い等について	1,071
(うち夜間急病センター受診後の患者からの相談)	(17)
消防局からの搬送等について	509
受診科目について(診療科の案内等)	32
合計	1,612

- ・事務職員が電話を受け、内容により看護師用PHSに転送し、手が空いている看護師が対応
- ・夜間急病センター受診後の患者からの相談及び消防局からの搬送等の連絡が占める割合は約3割、残り約7割は救急安心センター及び事務職員に移行できる可能性がある

(参考)

看護師配置についてー 患者数に応じた配置イメージー

患者数（人）			看護師配置※（人）								
			区分	準夜(19時00分から24時15分)				深夜（23時45分から7時30分）			
				平日	土日祝	GW	年末年始	平日	土日祝	GW	年末年始
年度	準夜	深夜	区分	平日	土日祝	GW	年末年始	平日	土日祝	GW	年末年始
H16	42,819	17,340	現行	9	13	12	13	5	6	6	8
R6	25,841	8,190	試算値	5	8	7	8	3	4	4	5

※看護師配置の試算値は現行の配置を基に、患者の減少割合から算出したものであり、実際の配置は法定休日や繁忙期、求められる医療の変化などに対応した勤務シフト等の実務における要件を考慮して決定

学会参加に係る旅費について

学会参加に係る旅費についてーご意見ー

- 北海道という地域性を考慮する必要があるのではないか。（中村委員・田作委員）
- 演題の有無など、どこの病院にも一定の基準はある。基準を作れば良い。医療安全や感染対策など、クオリティを維持するための研修費用は入っているのか？細分化して、提示していただいて議論すべき。（成田委員）
- 旅費交通費の見直しは、速やかにではなく令和8年度当初の実施項目とすることでどうか。（今会長）

学会参加に係る旅費について一答申への反映案一

第2 課題への対応

2 札幌市夜間急病センターの課題への対応策

(2) 歳出減に関わる対応

イ 委託費・旅費交通費

また、旅費交通費のうち学会参加に係る旅費が他政令市類似施設と比較して高水準であることから、学会参加に係る基準を定めた上で支出の見直しを図る必要がある（表5）。

札幌市 <u>夜間急病センター</u>	他政令市類似施設 平均 ※支出実態がある施設のみ
<u>3,060</u> 千円	137 千円

表5 学会旅費に係る支出額 （令和5年度決算額）

学会参加に係る旅費交通費について―答申への反映案―

第3 見直しの取組み（提言）

2 見直しの取組み内容

(2) 令和8年度当初までに行われるべき取組み

イ 経費の適正化

学会等への参加に係る基準を定めた上で、学会旅費に係る支出の見直しを行うこと。

(参考)

学会参加に係る旅費についてー基準イメージー

【基準策定の考え方】

- 札幌市夜間急病センター管理業務等仕様書で定める夜間急病センター職員（従事者）に対する人材の育成を目的として参加させる学会・研修であることを基本とし、学会については発表の有無を考慮する

【仕様書の関係部分】

ウ 人材の育成

業務に支障が及ばないよう万全を期するため、職員に対して、業務上必要とされる研修、指導教育（以下「研修等」という）を実施する。

研修等は、各年度の実施計画（以下「研修計画」という）に基づき実施する。
なお、研修は、指定管理者が自ら行うものの他、公的機関その他の組織が行う研修等に従事者を派遣して行うことも可能とする。

(参考)

学会参加に係る旅費についてー学会等参加状況ー

＜令和5年度の学会等参加状況＞

分類	開催 場所等	参加 日数	参加人数[発表状況]（人）		旅費等（円）
			従事者	非従事者	
学会	東京	3日間	2[発表なし2]		349,080
学会	和歌山	3日間		1[発表なし1]	233,680
協議会	大阪	2日間	3[発表なし3]	1[発表なし1]	747,230
学会	東京	3日間	4[発表なし4]		674,040
学会	横浜	1日間	2[発表あり2]		278,080
学会	京都	1日間	4[発表なし4]		777,960
計			15[発表なし13、発表あり2]	2[発表なし2]	3,060,070

(参考)

学会参加に係る旅費についてー学会等参加状況ー

<令和6年度の学会等参加状況>

分類	開催 場所等	参加 日数	参加人数[発表状況] (人)		旅費等 (円)
			従事者	非従事者	
研修	オンライン	1日間	1[研修]		3,000
学会	鹿児島	3日間	1[発表なし1]		364,920
研修	オンライン	1日間	1[研修]		3,000
学会	埼玉	1日間		1[発表なし1]	218,380
学会	熊本	1日間	1[発表あり1]		196,540
研修	オンライン	2日間	1[研修]		6,000
学会	宮城	3日間	3[発表なし3]		385,940
協議会	横浜	2日間	3[発表なし3]	1[発表なし1]	751,800
学会	名古屋	3日間	2[発表なし2]		381,040
計			13[発表なし9、あり1、研修3]	2[発表なし2]	2,310,620